

# 地域医療連携室たより

No.14

信頼と融和で創るよい医療

安全・安心・信頼される公正な医療の実践

発行日  
2009年6月30日

医療法人社団松柏会  
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより  
第14号

## 高齢者医療を中心に あきらめない外科手術



### 外科医

み やけ きみ と 医師  
三 宅 公 人

- ・鹿児島県生まれ
- ・副院長
- ・日本消化器外科学会 認定医
- ・マンモグラフィ検診精度管理中央委員会  
読影指導医
- ・日本体育協会公認スポーツドクター



### 早朝回診で患者さんの状態を確認

「おはよう」と三宅公人医師の明るい声が病棟に響きます。朝7時から入院患者さんへの早朝回診が始まります。外科、杉原保医師と一緒にです。

学生実習の際、たまたま泌尿器科担当の教授に「君たちは親兄弟にもみせないところを診させてもらうのだから、まず、患者さんと信頼関係を築くのが大事。朝、血圧測定をしてから来なさい。」と言われたことがはじまり。それ以来30年以上、早朝回診は続いています。

## 看護師の働く姿、看護に励まされ

当院で研修を開始。30年前。そのころから当院は高齢者をたくさん診ていました。返事もできず、ベッドに横たわる高齢者の患者。医者になりたての自分には異様な光景に見えました。このような世界でやっているのか。しかし、看護師さんたちは声をかけ、処置をしていきます。にこにこ笑いかけながら。自分も、だんだんそんな患者さんが元気で調子よかったり、具合悪そうでつらそうな表情をしていたりと状態が見えてくるようになりました。看護師さんたちの患者さんへの看護をみて、自分は「この病院でがんばれば、時間はかかっても、まともな医師になれる」と思いました。

目の前に患者さんがいたら、その患者さんを診るとというのが基本だと考えました。

## 新人の育成の手助けに

現在、毎週水曜日夕方5時30分から今年入職の新人向けの学習会を行っています。院内のスタッフが代わる代わる講師を務めます。何年来、続いています。もし、医師にならなかったら、学校の教師になっていたかもしれない、とのこと。



## ひとりひとりの患者をていねいに

今後の抱負として、今までと同様に、「高齢だ」というだけであきらめない医療をがんばっていきたい。「診て、考えて、ていねいに治療する。」

また、当院は具合が悪く、どこにもいきようがない人を基本的に断らないというスタンスでやっています。そして、一生懸命治療。治療が難しい方もいますが、良くなって退院できる人もいます。

## 高齢者のあきらめない外科手術と嚥下障害に対応

高齢者でも手術でよくなる可能性がある人は、あきらめずトライしています。当院には嚥下チームがあり、嚥下障害については嚥下訓練から、経管栄養まで行っています。胃ろう造設から小腸栄養まで総合的に。経管栄養のことなら何でも相談にのれます。

## 副院長として、在院日数管理も

在院日数の管理もなかなかたいへんです。もうちょっとゆったりした医療ができればと。家に帰す努力もしていますが、患者にもスタッフにも無理がかかっているのではないかと思うこともあります。お年寄りの行き場がないのは、社会全体の問題でもあります。ベッド稼働率が96%でしょ。なかなか厳しい。もうちょっと、ゆったりとした診療がしたい。なおかつ経営が成り立つといいんだけどね。

## ストレス解消は？

山道をバイクで走る、温泉に入る、蕎麦を食べることかな。

忙しい診療の合間にインタビューに応じていただきました。30年余り、当院の医療活動を支えていてくれます。「患者さんのために」。今後ともよろしくお願いします。





# 保健師として 看護師として 地域で健康な生活ができるようサポートしたい

保健予防科 横山久恵 保健師



横山久恵保健師

5月12日は日本看護協会による看護の日。看護週間の5月14日(木)、「ふれあい看護体験」が高校生を対象に当院で行われました。

## 「ふれあい看護体験」参加してくれて、 ありがとう。

.....  
現在当院保健予防科に保健師として勤務する横山久恵さん。「きょうは看護に興味を持って来てくれてありがとう。ぜひ、一緒に。」と現役の高校生に熱く語りました。今回、横山さんがなぜ保健師を目指したのか、また、今後の抱負を聞きました。

## 祖母の曾祖母を介護する姿をみて

.....  
自分自身が大きな病気をしたということがある。また、小さいころから、置賜に暮らす祖母の、曾祖母を介護する様子を見てきました。祖母は愚痴も言わず、曾祖母を在宅で介護し、看取りました。なぜそれができたのか。すると、それを支えるサポート体制が地域にありました。ショートステイを利用したり、話を聞いてくれる人がいたり。祖母は地域の様々な社会的資源を利用していました。学生時代の卒論は「在宅介護を続ける要因」。

## 健康に暮らす人にスポットを

.....  
地域で「健康に暮らす人にスポットをあてたい。」「予防的なかわり方をしたい」と学生時代より思い、卒業して看護師として働くなかでもずっと考えていました。少しでも長く住み慣れた土地で親しい人に囲まれて、その人らしく暮らしてもらいたい。

「病気予防」、「健康増進」、「保健情報の提供」など課題は山積みです。

## 「保健指導」と「健康教育」の 両輪で

.....  
現在、健診業務に従事する横山さん、健診を受けたからと安心したり、うけっぱなしの方も多々見られます。フォローに努めたいと。また、「やまがた健康友の会」で講師として参加。先日は市内宮町の方々に「新型インフルエンザについて」の話をしました。友の会と連携しながら、業務を進めていきたいと考えています。



「楽に呼吸して下さい」 健診時血圧測定

## 至誠堂総合病院 第2回地域連携交流会講演会開催のご案内

日 時：2009年8月20日(木)  
午後6時30分～午後8時30分

会 場：大手門パルズ 3階  
山形市木の実町12-37 TEL 023-624-8600

講 師：<sup>やまざき</sup>山崎 <sup>ふみお</sup>章郎 医師（現在、ケアタウン小平クリニック所長）  
「病院で死ぬということ」の著者

演題名：「緩和ケアの目指すもの」

参加費：無 料  
※日本医師会生涯教育制度指定講習会（3単位）に認定

内 容：

山崎医師は、「医療制度の限界だから、治療の望めない人はもうあきらめてくださいということではなくて、最後に、生きてきて良かったと思えるような社会を目指すべきではないか。ホスピス、緩和ケアというのは、そういう運動の意味合いを持っているのです。』『19歳の君へ』と著書で述べておられます。

癌のみならず、いろいろな疾病で人は死を迎えます。死をまぢかにした人達に敬いや思いやりの心をこめて医療、介護にあたることが求められています。この講演は現場で働く私たちに励ましと指針をあたえてくれるものと思われまます。



## 我らが街 桜町・木の实町・旅籠町商店街 ⑤



### 軽食・喫茶店「リーフ」

山形市旅籠町1-7-3 TEL 023-622-6348 8:00AM~10:00PM

#### ◇内海葉子さんに聞く

昭和44年11月に創業。40年来、この街の移り変わり、人々の行き来をずっと見守ってきました。軽食、喫茶店リーフ。お店の名前はご本人の「葉子」に由来します。葉子さんは三重県四日市生まれ。夫をなくし、両親と子供4人を育てるため、この店を建てました。

若いころから利用し、そして、時を経、今度は子どもを連れてきてくださる。何より嬉しいこと。一休みし、「ほっ」とできる空間を提供できればと思っています。

お酒は出さない、高校生らしき人がタバコを吸っている時は厳しく叱る、人の人生には深入りしない、長く続くわけは、ひとつ筋の入った生き方があります。

厨房はすべて息子さんにまかせています。東京の銀座7丁目のお店に勤めていました。

珈琲をはじめ、各種パフェ（小倉、フルーツ、チョコ、いちご、バナナ）、軽食（パスタ、ピラフ、サンドイッチ）がそろえてあります。

どうぞ、立ち寄ってください。



日本医療機能評価機構認定施設  
病院機能評価 Ver.5

### 至誠堂総合病院

地域医療連携室

山形市桜町7-44

023-622-7551

<http://www.shiseido-hp.jp>

[renkeisitu@shiseido-hp.jp](mailto:renkeisitu@shiseido-hp.jp)

発行責任者 至誠堂総合病院副院長

伊藤 英三

編 集 地域医療連携室

### 編 集 後 記

8/20講演予定の山崎章郎医師の著作を読む。厳しくも優しい世界。身近に実現できたらと思う。

(K)